

北海道がん診療連携協議会版ロジックモデル暫定版について

- ロジックモデル活用の利点として、下記の事項が挙げられる。
 - 計画の透明性が高まる
 - 成果の評価基準を明確化でき、進捗管理が可能となる
 - 仮定や因果関係を明示することで、プロジェクトの理論的基盤を強化し、改善のためのフィードバックループの構築が容易になる
- これらの利点により、プロジェクトの目的、活動、成果を視覚的に整理し、関係者間の共通理解を促進することが出来、ひいては戦略的計画や効果的な資源配分、意思決定の支援に寄与する。
- 今回、国内で最も歴史が長く、複数の有識者により検討されてきた沖縄県がん診療連携協議会のロジックモデルを雛形とし、北海道がん診療連携協議会版ロジックモデル暫定版を作成した。
- 現状として、沖縄県でも空欄である指標データが約 1 割、沖縄県にはあるが北海道にはまだない指標データが約 2 割あり、合計 3 割ほどの指標データが空欄となっている。また、沖縄県の地理的な特徴を反映した指標については、まだ北海道の指標に置き換えていないものもある。
- 今回提示した暫定版を土台として、今後、北海道により適したモデルに修正していくことを承認していただきたい
- 今後の方向性は以下の通り
 - 空欄の指標データをどのようにして充足するか(医療施設調査、医療者調査)
 - 各部会での検討
 - 国が策定したロジックモデルとの整合性の確認及び必要な修正

